

第3回 箕輪町景観策定委員会(ワークショップ)の成果

①景観の将来像を考える

誰(何)のため	守りたい・残したい	つくりたい・生み出したい	伝えたい	しくみ	その他
全体	<ul style="list-style-type: none"> 景観を保つために現状維持(保全)が大事 遠く離れていても思い出す、また年月が経っても心に残る景観づくり すべての方に見せたい、いつまでも残したい、将来のために 山並みが知らないうちに変わってしまうことの無いように見届ける(守っていききたい) 遠い先もですが、今の自分のために、心にゆとりを持つ緑の中で暮らしたい 気持ちの良い風景を何回も見たい 	<ul style="list-style-type: none"> 農業振興による景観形成を考えていききたい 箕輪町のために残したい。場所によっては展望台を作りたい 都会に育ちました。若いとき、もし子どもを持つことが出来たら、自然の美しさの中に住み、「ここが僕たち、私たちのふるさと」と言える地方に育つた、帰る所のある子どもたちを持ちたいと思いました 所有者と管理者及び、利用者双方のメリットがある景観づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 現況(箕輪らしさ)が素晴らしく、今の姿を大事に伝えたい 農地から来る景観の大切さは、過去・現在・未来へと受け継がれるもの。育つた、そして住んでいて永く心に残る景色であり、大切にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 住民や未来の子孫のために、緑や清流を守り、更に増加する運動を進めていく ☆この土地だから働きたい……そんな環境づくり 地元を知っている人 + 外から移り住んで働く人 	<ul style="list-style-type: none"> 景観条例を作り、それに沿ったまちづくり、景観にすることが急がれる 条例をつくる ↓ 景観づくり
町民地域	<ul style="list-style-type: none"> 町に住んだ人が、「ここに住んで良かった」と思える、ホッとする景観を維持したい 住民や、日本の将来の子どもたちのために、長寿社会になっても、人生のゆとりや潤いを与えられるような山河を守っていく 町民が快適と思える風景を残しておきたい 現住民のため 	<ul style="list-style-type: none"> 住民が住みやすい環境を残すよう、自然を大切にしていって意識の形成を作っていく 住んでいる人たちが心安らぐために、守り、造りだしたい 			<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの状況を広く伝達して、みんなでふるさとづくりに取り組むべき
暮らし生活	<ul style="list-style-type: none"> 残したい風景にまつわる歴史、特長、文化、暮らしなども一緒に記録し、残したい 伊那谷の田舎さをエリア的に残したい 	<ul style="list-style-type: none"> 住んでみたい町 どの家からも、自慢の景色を見られる(見せられる)見通しの良い町にしたい 地域を、暮らす人が一緒に育てる意識が持てるようにしていきたい 			<ul style="list-style-type: none"> 景観に対する負荷の大きい存在、例えば企業が何をすべきか考えたい
自分	<ul style="list-style-type: none"> 自分のために、ふるさとと思える風景を残しておきたい 				
子孫次世代	<ul style="list-style-type: none"> 次世代のために、現在の景観を保つ 子々孫々のために、ふるさとの原風景を残していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代の人が、住みたいと思えるまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 山並み、田園風景等の自然景観と、産業や都市機能との調和のとれた風景を、次世代に引き継いでいきたい 今の景観に手を加えず、未来に伝える(商工業地を除く) ふるさとの今を大事に、将来に残し伝えたい 	<ul style="list-style-type: none"> 次の世代が住みたいような「しくみ」づくり、景観づくり 	
町を離れた人たち	<ul style="list-style-type: none"> 町を離れた人たちが、帰りを楽しみにできるように守っていききたい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが都会の学校に行っても、故郷で就職(戻る)するひとつのきっかけに景観をしていきたい(教育・人口減対策) 			<ul style="list-style-type: none"> まず、この会の名称について「町の風景の未来を考える会」or「町景観策定委員会」と二つの名称が使われているが、ひとつの名に統一した方が良い
来訪者	<ul style="list-style-type: none"> 住民や、箕輪町を訪れた人間が、心を癒されるような山河を守っていく 普段は気付かなくとも、外部の人に「良いところですね」と言ってもらえる、どこにでもある田舎の景観を残してゆきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 町を訪れる人たちが、のんびりと心のどかに過ごせるような景観にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 萱野高原や、上・下古田から美しく見ることのできる視点場に、多くの方に来て頂きたい 	<ul style="list-style-type: none"> 外来者に案内することが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 地区、部落等で気になる個所が多い。今後の対策が急がれる
思い出歴史	<ul style="list-style-type: none"> 人びとが集まれる場所ということになれば公園とか池ではないかと思えます。ともに広い方が良いですが、大きい池を造れば魚釣りが出来ますし、人も集まって来て交流が出来ます。池の周りには樹林や草木があれば、なお一層良いです。親子で覚えた魚釣りは一生忘れません 心に残る、なつかしいと思える景色を残したい 		<ul style="list-style-type: none"> 古くからある自然、遺跡等を保護、保全し将来に伝えていく 「景観」古来(先輩)より造られ、または守られた、町内の心にとまる景色を、いかに守り、大切に出来る 祖先の残してくれたものを暮らしの中に伝えていきたい 		
エリア		<ul style="list-style-type: none"> 花街道のように、新たに自然と調和した環境(景観)を作っていく 			

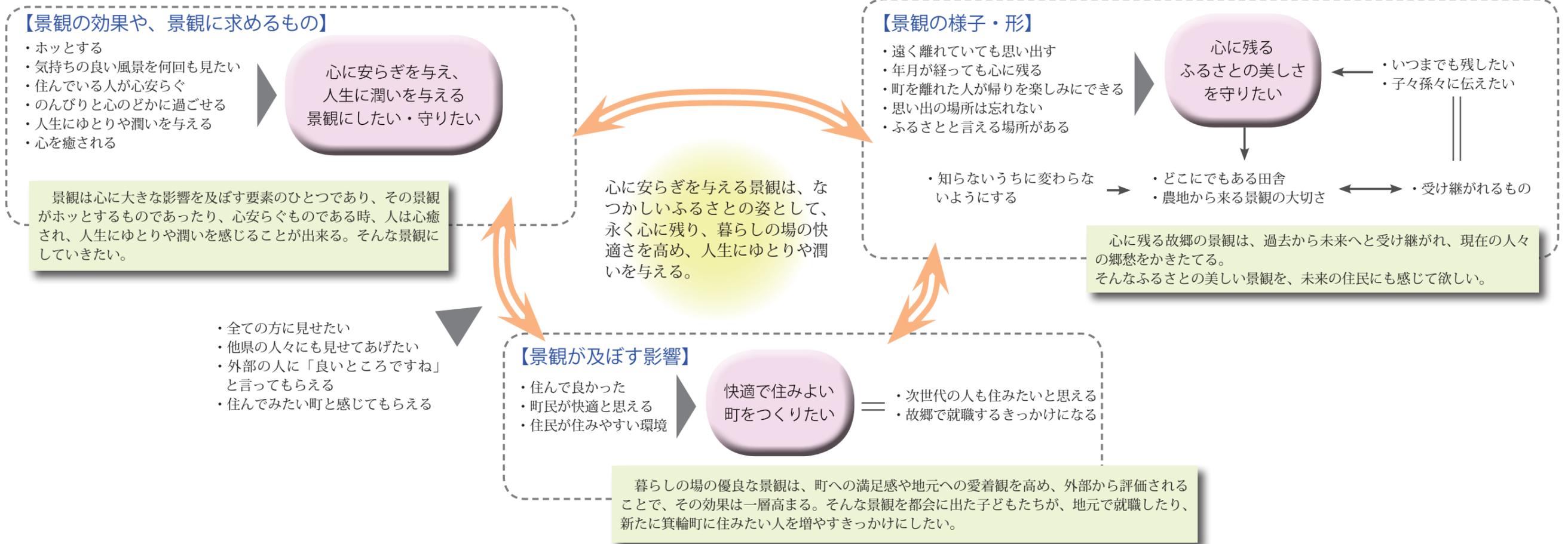
自分たちで大事にする意識

例)木を植える⇒意識を持つ⇒ルール!

【具体案】
 ・電線を地中化してください
 ・地域の写真を付けて、案内板も必要と考える
 ・看板や派手なネオンは、街中の限定された区域に集中した方が良い
 ・選挙ポスター、看板等が気にかかる
 ・この町に合わない建物、自販機、ポスターが気にかかる。これらの方策が必要
 ・ソーラー発電の設置場所は、景観を悪くさせないように町が規制する

①景観の将来像を考える…【目指したい景観の将来像でのまとめ】

目指したい箕輪町の景観の将来像



将来像を実現するために・・・何から始めるか、どうするか

